



この新聞はHP (<http://www.npo-asia.org>) でも読めます。上のQRコードを読み取ってください
 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

新年のご挨拶

理事長 加納 啓良

2023年(癸卯のうさぎ年)、明けましておめでとうございます。昨年初めの小生予言に反しコロナ禍が尾を引いていますが、軽症化が進みだんだん普通の病気に変わりつつあるようにも見えます。ゼロコロナにこだわってきた中国ではどうするのか気がかりです。ともあれ、今年もめげずにがんばりましょう。

ここまではアジ風理事長としての公式のご挨拶ですが、プライベートの個人としては親類に昨秋弔事があり新年の祝詞は控えました。喪中葉書を作りながら、ふと気づいたのですが「喪中」(モチュウ)は、上が訓読みで下が音読みのいわゆる湯桶(ゆとう)読みです。中国語と違って日本語の漢字には読みがいろいろあり、その組み合わせが一筋縄ではいきません。厄介な一例は「最中」です。ある韓国人が土産物屋で「最中」と書かれた和菓子があるのを見つけ「そのサイチュウをください」と注文したら「モナカですよ」と爆笑されたそうです。

地名の「神戸」もくせ者です。有名なのは東の横浜と並び日本を代表する港町のコウベ市ですが、同じ漢字の組み合わせで、東京都西多摩郡檜原(ひのはら)村にはカノトと読む集落が、また都県境の尾根(通称笹尾根)をはさんで南側の山梨県上野原市にはゴウドという名の集落があります。インターネットの検索で調べたら、日本全国には以上三つの他に、カド、カミト、カンド、カンベ、ジンドと合計八つの、読みが異なる「神戸」がそれぞれ複数実在します。こんなことは、中国や韓国ではありえないですね。日本語を学ぶ外国人はさぞ困惑することでしょう。しかしこれも日本の伝統文化の一部なので、留学生やIメイトの皆さんにも分かりやすく説明してあげましょう。



タマサート大学 シリワン先生からのメッセージ

初めまして。タマサート大学教養学部日本語科のシリワン・ムニタラウォンと申します。前任のタサニー先生に代わり、2022年10月よりタマサート大学のコーディネーターを務めさせていただくことになりました。

アジ風の活動に参加するたびに、自分の学生の頃が思い出されます。中学1年生の時、私は『メナムの残照』というタイの恋愛小説を読んで、日本に興味を持ちました。戦時中、政略結婚させられる日本人軍人とタイ人女性の話ですが、日本人や日本文化についていろいろ書かれていて、日本に惹かれました。将来日本に留学して、日本人の友達を作り、自分の目で日本を確かめようと強く決めましたが、その時代は留学どころか、日本語が勉強できるところも少なかったです。それ以来、私は交換留学の奨学生試験を目指して、一生懸命勉強しました。やっと夢が叶ったのは

5年後でした。一年間交換留学をして、たくさん友達ができましたが、その時代はインターネットが普及していなかったため、毎日首を長くして日本からの手紙を待ちました。その後、私は何回か引越したため、連絡が取れなくなったこともあります。

『メナムの残照』の中の日本人に出会った日から、もう30年経ちました。今の学生は簡単に日本へ行くようになりましたが、日本人の友達や家族とメールのやり取りをする機会はなかなかできません。アジ風の活動に参加できる学生たちは運がいいないつも思っています。



金井 優佳さんのファンクラブが発足

12月3日、金井優佳ファンクラブ(アリエットクラブ)が発足し、イベントのライブが行われました。

会場は銀座シグナスで、トワイライト X'mas Live として開催されました。発起人の皆さんとファンが約60名参加して満員の盛況でした。アジ風からも8人が参加致しました。

金井優佳さんはアジ風の発足初期からの会員で、アジ風のテーマソングを作曲した方でもあります。今回のライブでは、ファンクラブ発起人の一人でもあるアジ風の上高子さんの挨拶の後に、金井さんがテーマソングを会場の皆さんにご披露して下さいました。

金井さんは中国の清華大学やタイのタマサート大学への訪問交流会の舞台でも、この歌を歌われたそうです。

K-FUNK というベテラン揃いのバックバンドと女性歌手との共

演で、ジャズだけではなく誰でも知っている日本の名曲(川の流れるように、いい日旅立ち等)や時期に合わせてのクリスマスソングのメドレー(クリスマスイブやホワイトクリスマス等)が歌唱・演奏され、大いに盛り上がりました。

このファンクラブはアイドルのファンクラブなどとは違い、大人のクラブとしてのイベント、異業種交流会など、楽しい企画を、年に4回程度考えているそうです。アジ風とも草の根の多文化共生や平和活動をテーマに協働していきたいとのことです。

<金井さんの隣が筆者>

(正会員 鈴木 一美)

日本のジェンダーギャップ（性差別）について取り組んだ一年

始まりは2022年1月。世界経済フォーラムによる「ジェンダーギャップ2021」で日本が156か国のうち120位という低いレベルと知り、元Iメイト学生にアンケートを実施したところ、63パーセントがその通りと思う、と回答があった。そこで学生たちから原稿を募り、9月の総会時に「別冊Iメイト便り」の発行にこぎつけた。アジ風会員にこの冊子の感想をアンケート調査したところ90人からの回答があり、うち55%が「興味あるテーマである」、53%が「気づきと自己啓発があった」（複数回答）というので、12月にオンライン公開座談会を実施した。

参加者7名は、アジ風の理念である多文化共生を念頭に、年齢、性別、国籍に多様性を配慮し起用、奥山寿子理事がファシリテーターとなって、約一時間半にわたり熱心な意見交換が繰り返された（視聴者34名は画像と音声オフで入室）。

参加者の発言で、企業内の改革が遅れている原因の一つは、「人事評価における減点主義があると思う。加点主義の米国など比べれば、女性の出産や育児はデメリットでしかない（50代日本人男性）」や、働く母親の立場で「日本の保育園や小学校では、あまりにも細かいルールがあって保護者の負担が大きい。もっとシンプルにしてほしい（ベトナム人女性）」や、無意識で使っている差別用語について「奥さん、ご主人、など言葉にも吟味しなければならない（70代女性）」など、参加者全員が自由に自分の意見を述べて、ギャップに柔軟に対応している様子が印象的であった。また当たり前として受け入れていた社会制度が、変革期には、それまで優位な立場にあった層が割を食う、という男性側の意見にも納得がいった。

今回の参加者は属性が多様ではあるものの、外国に長く住み、異文化体験を通して自国の社会を相対化し、自文化を顧みる機会が多かったことが、全員に共通していた。世界に遅ればせながら



も確実に、日本のジェンダーギャップが埋められつつある、という実感が持てた座談会であった。

他方、会員のアンケートの自由記述には、「長い間に築き上げた日本固有の文化（女性は家庭を守る）を否定したくない」という意見から、「アジ風はジェンダー意識が遅れている」という批判的意見まであり、そのコメントは幅広くまさに多様である。

同質の人々だけで「そうだ、そうだ」と同調するのではなく、「なるほどそういう考えもあるのか」と気づきをもたらし、あるいは自己啓発と行動変容をもたらす多文化共生の理念。それが、「力を用いず紛争を解決する手段」と信じてここまでできた。アジ風はこのスタンスを変わず継続していきたい、と願っている。

最後に、ジェンダー平等世界一のアイスランド大統領の言葉から。『50年前の私たちも男性中心の社会だった。ジェンダー平等は（・・・略）人々の幸せな生き方に大いにに関わり、進めることに意義がある。』

（副理事長 上 高子）

就職支援

令和4年度から、日系企業への就職を希望する交流校学生の支援をする企画を立ち上げました。

日本企業は、優秀な海外人材の採用に奔走しています。Iメイト学生の皆さんが、学んだ日本語を駆使し就職内定を実現できる一助になるよう準備を始めました。

関係機関、人材企業からの情報入手を行い、現地進出企業情報もJETRO、JICAから取得しました。資料が完成した夏から、タマサート大学、パジャジャラン大学とZoomで結びオンライン講義（基礎編・応用編）を行いました。2023年には、貿易大学で行う予定です。

タマサート大学ではアジ風顧問のタサニー先生から、通訳科学生の実習を同時に行いたいとの希望を受け実行しました。8月28日基礎編33名、9月4日応用編37名の参加がありました。タイは、日系企業が多く学生の関心が高いものの日本本社への希望は、未だ少数でした。

パジャジャラン大学は、11月17日基礎編12月15日応用編を実施しました。大学が授業の一環に組み込んでくれ、基礎編では、2017年に日本で開催した初の5か国交流に参加されたイヌ先生が開講の挨拶とアジ風の紹介をされ、講義を行いました。153名（4年生+3年生）が参加し壮観でした。講義後のQ&Aは熱を帯び2時間超になりました。

サムスル先生は応用編に参加、教室で学生にフォロー解説をしてくださいました。参加学生は約60名。アンケートでは80%の学生が関心あり、さまざまな仕事の内容をもっと知りたいと意欲的な回答でした。

日本語レベルを上げ、夢（日系企業就職内定）の実現を目指し頑張っていて欲しいと思います。

なお、大学や企業でメンター経験のある正会員の松野芳夫さんの協力を得て行いました。

（理事 大橋 典子）

日本でのインターンシップ

貿易大学4年生のデイン・テイ・ホアン・アインさんが、北海道のトマムで、一年間のインターンシップを受けています。また、昨年11月には、9月に卒業後、ハノイでIT企業の正社員として働いているド・テイ・トアンさんが、大阪で、経済産業省による1か月のインターンシップを体験しました。トマムの星野リゾートでインターンシップ中のホアン・アインさんの報告です。

（理事 島村 美智）

日本語を学ぶ人は誰でも日本に行きたがります。私も例外ではありません。日本での1年間のインターンシップについて聞いたとき、その機会をつかみました。日本に来て、学ばなければなら

ないことがたくさんありますが人々はいつも喜んで助けてくれましたので、不安は全くありませんでした。日本は景色も人も美しいです。電車の中で一人で音楽を聴きながら窓外の景色を眺めていると、まるで夢のようでした。また、日本人に非常に感銘を受けました。日本人はいつも時間を守りますし、サービス産業が非常に発達した国です。私の「日本人の両親」と非常に貴重で幸せな経験をしました。それらの思い出は、私が決して忘れられない貴重なものです。

（ホアン・アイン Iメイトは吉岡京子さん）





架け橋グループのリアル交流会

清華大学から東京工業大学への大学院院生の留学がいち早く再開され、昨年9月までに2学年分の院生13名が来日しました。

久しぶりのリアルの会合で、院生全員と日本の会員16名、合計29名が参加する交流会となりました。



午前中は東京大学本郷キャンパスを見学して学内のレストランで昼食と懇談、続いて上野公園での散策を楽しみました。

昼からは、多くのメンバーが国立博物館を見学し、番外で居酒屋で夕食も一緒に楽しみました。(コーディネーター 浮田 輝彦)

交流会に参加して

ついに東京でIメイトの池浦さんや他の仲間たちに会うことができました。とても幸運に、この日はやっと晴れました。私たちは、一緒に歴史ある東京大学本郷キャンパスを見学しました。



私は北京五輪のボランティアに参加していたので、五輪の思い出話を花を咲かせました。昼食時には、中国の時代劇について話しました。池浦さんは、特に「大秦帝国」というドラマが大好きとのこと。私の故郷の西安がちょうど物語の中心地であったので、故郷の歴史と、ドラマをいくつか紹介しました。池浦さんに中国の扇子を贈り、ご一家のご無事を願いました。

そして夕食では、日本の旬の海の幸と一緒に味わいました。日本での生活について聞いてもらったり、生活上の挫折に打ちのめされないようにと励まされたことに感動しました。とても楽しい一日でした。善意を持った人たちが幸せに暮らせることを願っています。(高 旭東 Iメイトは池浦 正子さん)(原文は英語)

山歩きの貴重な体験

2022年11月8日に、紅葉を見るためにアジ風会員の皆様と高川山に登りました。私は中国にいるとき、よく山歩きをしていました。しかし、日本の山歩きとは大きな違いがあります。北京の山には、観光客に便利のように階段やトイレが備えてあります。それに比べて、高川山の山歩きは挑戦的で、面白い経験でした。秋の美しさを感じたことはいまでもなく、緩や

素晴らしい一日

アジ風の皆さんにお会いできて、楽しく思い出に残る初めてのイベントでした。天気は素晴らしかった。東大の建築はとても魅力的でした。青空の下での撮影は忘れられない思い出になりました。



＜左が佐藤さん、右が李さん＞

昼食会のチャットも、みんなをよりよく知るのに役立ちました。上野公園の景色を楽しみ、新鮮な空気が素晴らしかったです。でも不忍池の魚はちょっと怖かったです。

佐藤さんとたくさんお話ししました。彼女は上野の風景と彼女の故郷を紹介してくれました。私たちはキャリア開発についての考え方を共有し、非常に価値ある交流ができました。秋葉原ツアーも楽しかったし、好きなアニメの話もした！ Bonus tour! 今後もこのようなイベントに参加する機会が増えることを願っています。

(李 妹承 Iメイトは佐藤 愛生さん)(原文は英語)

世田谷祭り

秋晴れの10月16日、世田谷区つるまきの弦巻神社例大祭が執り行われました。友人から、「お神輿みこしの担ぎ手募集！」の連絡があったのは数日前。急な申出にも関わらず、会員及び架け橋の学生たちが桜新町に集合してくれました。



狩衣かりぎぬ装束の神主が祝詞を捧げ、学生達にもお神酒がふるまわれました。神輿を担いだのは中本寧さん、松浦康彦さん、稲村、孫秋実さん。法被ほろひと地下足袋姿で威勢のよかけ声とともに宮出しです。

学生達も写真を撮りながら、一緒に弦巻地区を練り歩きました。コロナ禍で3年ぶりの神輿担ぎとなり、マスク越しにも笑顔が溢れ、元気なかけ声が響き渡っていました。日本の伝統行事に触れる貴重な体験ができたと思います。(正会員 稲村 由佳里)

かな坂で話をたのしんだり、急な坂では一生懸命に前を向いて登ったり、非常に楽しかったです。本当に貴重な経験でした。

山頂とふもとは温度差があるために、風景にはそれぞれの魅力がありました。「人間四月芳菲尽，山寺桃花始盛开」という詩が中国にあり、意味は「晩春の花がすべて散ってしまったが山の中には桃の花が満開である」。本当に自然の魔法だなあ！

(王 岩 Iメイトは勝 福代さん)

会員紹介

大石 純(すなお)さん

1905年日露戦争に日本が勝利し、ポーツマス条約によって南満州鉄道はロシア帝国から大日本帝国に譲渡されました。大石さんのお爺様はその満鉄に勤められ、大連にお住まいになっていました。お父様は大連で生まれて、10歳まで育ち、その後日本に引き揚げられましたが、中国と中国語への思いを捨てがたく、60歳定年の後に再び中国語を学ぶ為西安へ留学されました。(実は私の母方の祖父も満鉄に勤務していて、母は奉天で生まれたのです。)

そのような血を引いた大石さんも学生時代から将来はアジアの国々と日本の架け橋になりたいという夢を描いておられ、バックパッカーとしてバンコクやスマトラ島などに冒険の旅に出掛けられました。

銀行に勤めて4年後、希望が叶ってジャカルタ駐在員となりましたが、1997年のアジア危機、そして翌年のスハルト大統領退

陣要求に起因する暴動でジャカルタは危険になり、一時シンガポールに避難を余儀なくされました。会社の危機に当たってローカルスタッフが親身になって助けてくれました。

その時の恩を是非とも将来返したいとずっと思っていた折、アジ風の活動の話聞き、これこそ求めていたボランティア活動の場だと納得し、早速入会されたのです。



アジ風に入会されたのは2021年の10月なので、まだインターネットを通じた活動にしか参加しておられませんが、今度は是非対面での活動にも参加したいと意欲を示されました。将来どんなことをしてみたいですかとの質問に対しては、「今交流しているIメイト達は皆日本への留学を希望しています。その人達が日本に来た時には出来る限りのサポートをさせて貰いたいと思っています。自分は今まで54歳の現役なので、仕事も続けながら、アジアの国々にも行っているような協力が出来れば嬉しいです。」とやさしい笑顔でした。(インタビューア：園田 成和)

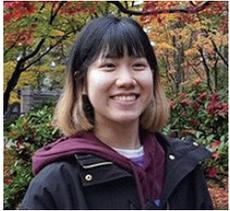


サワディー・ピー・マイ・カップ (明けましておめでとうございます)。

本年はまだまだ取まらないコロナと共存の年になりそうですが、気を付けながら活動していきましょう。今回はアジ風活動を理解し毎月の「おしゃべりの場」にも積極的に参加されているエールさん、トイさんとその日本人Iメイト会員の河野さん、大石さんの交流の様子を垣間見てみましょう。(註: エールさん、トイさんは愛称) (コーディネーター 富平 茂)

河野美希さんとワスリー・ヨンワッタナセットさんの交流 エールさん→河野さん 2022年7月18日

こんにちは! 前回のメールを直していただきありがとうございます。



美希さんの息子さんは背が高いですね! 外国で暮らすからかもしれませんね。インターンシップについて、美希さんが書いたのはとてもいいと思います。好きでも嫌いでも、後で必ず役に立ちますね。うまく覚えていきます。

そしてこれから私は「趣味を仕事にする」という文章を自分のスローガンに使うつもりです。

実は、美希さんに伝えたい良いニュースがあります。私は奨学金留学に合格しました!

何も問題がなければ、9月28日に日本に到着する予定があります。とてもワクワクして、嬉しくて、緊張しています。でも何よりももっと頑張らなければならぬ気がします!

河野さん→エールさん 7月29日

こんにちは! エールさん、日本への留学が決まったのですね! 大阪大学合格おめでとう!! すばらしいですね、ご家族のみなさまも喜んでいらっしゃるでしょう。



私は東京在住なので、エールさんになかなか会えませんが、折(おり)を見て大阪へ会いにいければと思っています。エールさんも生活が落ち着いたらぜひ東京に遊びに来てください。

日本の生活は便利ですが、便利な社会の奥には「細かさ」も伴っています。私は東南アジアで暮らしてみても不便なことも多かったですが、細かさが無い国や社会の心地よさを味わっていました。日本に帰ってからまた「細かさ」と「便利さ」を感じながら生活しています。エールさんにもこの2つの日本の特徴を経験してもらい、エールさんが感じた細かさとお利便さをぜひ私に教えてください。

日曜日のおしゃべりの場に参加しますか? 私は参加する予定です。会えたら嬉しいです♥

☆前回のメールを少し直します。

1. うまく覚えていきます。→よく覚えておきます
2. 日本に到着する予定があります。→日本に到着する予定です。

大石純さんとカーンシリ・ピテイパットさんの交流 トイさん→大石さん 2022年6月12日

こんにちは。私は最後のレポートを出したので、やっと大学2年が終わります。



リラックスできるといっても、7月の日本語能力試験の準備を始めないと間に合わないなので、最近漢字の復習をしています。

実は、今日は私の誕生日です。20歳になりました! それで、昨日母と焼き肉を食べに行きました。

タイでは、最近は雨季なんですけど、温度は30度以上、夏のような感じです。暑すぎて、私は冷房を使っていて、部屋にしかいません。日本は夏が近づいていますね。

大石さん→トイさん 6月13日

お誕生日おめでとうございます。

日本は成人年齢が18歳になりましたが、タイでは20歳ですよ。これからは、堂々と、お酒が飲めますね。

次は来月のJLPTですね。日本留学の夢を実現する為に頑張ってください。

焼肉はタイ風の焼肉ですか? それとも日本風か韓国風でしょうか? タイ料理は好きなので、最近、我が家では、パッタイをよく食べます。パクチーもいっぱい入れます。パクチーは美容や健康にいいことが知られるようになってから、日本でも大人気です。



トイさん→大石さん 6月22日

食べに行った焼肉は日本風でした。タイ風の焼肉は「ムーガタ」と呼ばれています。日本風と少し違って、特別なフライパンを使って、上は肉を焼き、そのまわりは野菜や麺などを煮ることが出来ます。つまり、ムーガタは焼肉としゃぶしゃぶのハイブリッドです。日本でパクチーが人気があると私も聞きました。私は野菜が苦手なので、あまりパクチーを食べません。

タイでは、パクチーはただの料理の飾りだけです。でも日本は、料理にたくさんパクチーを入れ、パクチージュースなどもありますね。タイ人は、日本人がそんなにたくさんパクチーを食べるなんて、いつ見てもスゴイなーと思ってしまいます。



今後の行事予定

*詳細はHPを参照

- | | |
|-------|-------------------------|
| 1月7日 | 架け橋オンライン交流会 |
| 1月8日 | 貿易大学オンライン交流会 |
| 1月14日 | 清華大学オンライン交流会 |
| 1月21日 | 架け橋リアル交流会
(留学中の学生対象) |
| 1月29日 | タマサート大学オンライン交流会 |
| 2月19日 | 新春交流会 (ハイブリッド) |

・・・編集後記・・・

2023年、アジ風は、創立20周年を迎える。交流相手も4大学となり、コロナ対策として採用されたZoomによる交流が、複数大学同士の交流を生み、相手と顔を見ながらの交流を可能にした。また、コロナ三年目に入り、日本への留学が再開され、リアルでの対面も始まっている。三年ぶりに実現した架け橋グループの来日は、「会うこと」の楽しさ、画面を通さず交流することの素晴らしさを改めて感じさせてくれた。互いの交流を通して、文化の奥深さを知り、年齢、生まれた国、背景を越えた共通点を見つけていくことは、まさに多文化共生への一歩だろう。「アジアの新しい風」の更なる発展を目指したい。(島村 美智)

アジ風新聞77号3ページ、千歩和人さんのお名前のルビに間違いがありました。正しくは「せんぶ」さんです。心よりお詫び申し上げます。訂正させていただきます。